

夢に向かって

学校教育目標（菊鹿小中学校）「ふるさとを愛し、夢の実現に向けて挑戦し続ける児童・生徒の育成」
菊鹿小スローガン ~ 関わり合い 認め合い 菊鹿愛 ~ 文責 校長 内古閑 見至

1 学期 校内人権旬間

6月は、全校で取り組む「校内人権旬間」を実施しています。子ども達には、「友だちの良さを知り、お互いを大切にできるようする期間」だと全校集会で説明しました。熊本県全体でも、「心のきずなを深める月間～いじめを許さない学校・学級を目指して～」と定め、いじめの未然防止・早期発見に重点を置いた総合的な対策を推進しています。

来週27日(金)の授業参観では、全学年とも実態に応じた教材を元に人権学習を行います。その後は、学級ごとに「人権のめあて」を作成し、定期的にめあてができているか確認していきます。また、菊鹿小人権宣言を確認、人権標語の作成・紹介も計画しています。ぜひ、御家庭や地域でも人権について話題にあげていただき、みんなで人権について考え、大切にできる言動ができるようになったらいいなど考えています。

菊鹿小人権宣言

一、私たちは、友達の名前を呼び捨てにしません。
二、私たちは、友達のよいところをみつけます。
三、私たちは、思いやりの心を大切にして協力をします。
四、私たちは、いじめや差別をなくすため行動します。

菊鹿小に笑顔あれ
一人一人に希望あれ

令和七年六月 菊鹿小児童会

児童集会～保健委員会による発表～

17日(火)朝、児童集会が行われました。保健委員会による発表は、虫歯に関するクイズから始まりました。「第1問 菊鹿小学校児童全員(206名)の虫歯は何本?」「チャーラン」(子ども達の声による効果音)「①203本 ②206本 ③256本 答えは何番?」※答えは、裏面一番下に載せています。

楽しいクイズの後は、絵本「むしばあちゃん」の保健委員さんによる読み聞かせ(録音版)がありました。スクリーンに映し出された絵本のページ間には、ばい菌役の保健委員さんが歯を攻撃し虫歯にしているシーンも流れました。子ども達は食い入るように集中して読み聞かせを聞いていました。長い期間、準備に一生懸命取り組んだ成果が表っていました!

最後は、保健委員長から虫歯の怖さや治療の大切さについての話があり、会場からは、「私は歯磨きをちゃんとしようと思いました。」「虫歯が命に関わる病気なんだと思いました。」などの感想が発表されました。

自分たちの生活は、自分たちで改善していこうとする自立に向けた活動がなされました。

※裏面もあります。

大いに学び、大いに楽しんだよ！

5月29日（木）30日（金）の日程で、6年生が長崎への修学旅行へ出かけました。以下の4つが修学旅行の目的でした。

- (1) 長崎の地理や歴史・自然・文化に触れ、そこに生きる人々の暮らしや社会の様子を見聞きすることで、児童の体験を豊かにするとともに、これまでの学習で得た知識を確かめ、これから学習に役立てるようとする。
- (2) 原爆資料館等を見学することにより、平和の尊さをより深く学ぶ。
- (3) 集団の中で規律ある行動を身に付け、公衆道徳や責任感・連帯感を養う。
- (4) 2日間行動をともにすることにより、互いに学び合い、親しみあう機会とする。

1日目は、まず、平和公園を訪れ、平和集会を行いました。

平和宣言を行い、千羽鶴を奉納しました。昼からは、フィールドワークをしながら如己堂・浦上天主堂・原爆落下中心地等を訪れ、戦争や原爆の恐ろしさを学び、肌で感じることができました。また、語り部の八木道子さんから原爆が落ちたときの実際の様子を聞く貴重な体験もすることができ、平和の尊さを痛感し、平和への思いを深く、強くすることができました。これから的一生の生き方に大きな影響を受けた日となりました。



2日目は、思いっきり楽しむ日でした。今年から、菊鹿小学校の修学旅行の行程の中にハウステンボスが組み込まれました。ハウステンボスの中の町並みやアトラクション、イベント等を思う存分楽しむ姿がありました。逆バンジーや恐竜のVRアトラクションがかなりの人気だったようです。グループでの班活動を通して、友だちとの絆も深まり、とても楽しく良い思い出となりました。

修学旅行の目的を達成し、旅行中お世話になった方々、当たり前に生活できていることそのものに感謝の気持ちをもつことができた素晴らしい体験となったと思います。修学旅行で感じたこと、学んだことをこれから的生活にもしっかりと生かし、充実した生活を送ってほしいと思います。

○語り部 八木道子先生に向けた子ども達のお礼状の一部（抜粋）を紹介します。

私は、八木道子さんのお話を聞いて、平和は向こうからやってくるのではなく、自分からつくるものという言葉が心に残りました。なぜなら平和は自分たちで築きあげていくんだけよという思いが込められていたからです。私の今の生活で、平和は当たり前のものだと思っていました。でも、違うということに気付くことができました。これからは、八木道子さんから受け継いだ平和のバトンを多くの人につたえていきたいです。そして午前11時3分を迎える前に亡くなってしまった人々の分の希望をもって生きていきたいです。私の将来の夢はバレーボールの選手です。だからその夢に向かってがんばっていきたいと改めて思いました。

建山 瑞悠

ぼくは、長崎を最後の被爆地にという言葉が心に残りました。理由は、もうこれ以上の原爆の被害を出さず平和な世界を創り上げていきたいと思ったからです。爆心地から1800m離れていた郵便屋さんの背中のやけどが7か月経っても治らなかつたことを知り、そんなに威力がすごかったことがわかりました。もう二度と同じ過ちを繰り返さないことを世界の人々へ教えて、繰り返さないようにしたいです。八木さんから受け取ったバトンをつないでいきたいです。

宮本 空